



# おかやま環境ネットワーク

NO.68  
2012.7

# NEWS

発行:(財)おかやま環境ネットワーク  
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7  
TEL/FAX 086-256-2565  
E-mail:kankyounet@okayama.coop  
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

## 市民のための環境講座① 開催報告

第1回『自然災害から学ぶ～  
気象・気候に関連して～』



加藤 内藏進 氏

4月14日に岡山大学大学院・教育学研究科教授・加藤内藏進氏を講師に開催し、28名が参加されました。

講師からは、降水量や風速の見方・考え方、雨や雪の降り方の注目点、集中豪雨の傾向・注意点、台風による大雨の傾向、天気図の見方、長い期間で見た気温の変化などについて、それぞれの具体的事例やデータをもとに解説がありました。

また、1971～2000年の6～7月にかけての長崎の日降水量について、大雨日と無降水日を一覧表で色分けする実習もあり、具体的な傾向の理解がすすみました。

## ネットワークのつどい (維持会員総会・助成活動報告会) 開催報告

6月30日、オルガホールにて『ネットワークのつどい』を開催し、52名が参加されました。

この「ネットワークのつどい」は、交流強化を目的に助成報告会、環境活動交流会、維持会員総会の3点を併せた交流事業として開催しました。

### 1. 助成活動報告会

2011年度助成を受けた団体から、以下の調査研究活動の報告がありました。

①『ウスイロヒョウモンモドキの保護活動』岡山県恩原高原ウスイロヒョウモンモドキ特別委員会・難波通孝氏



ウスイロヒョウモンモドキの♂

②『永江川河口湿地の形成と現状から、今後の保全のあり方を検証

する』岡山淡水魚研究会・森千恵氏



オカミミガイ

③『真庭市北部のオオサンショウオについて (中間報告)』真庭ハンザキ調査団・瀬島義之氏



オオサンショウオ生息実態調査

### 2. 維持会員総会

理事会報告として2011年度事業・決算報告と、2012年度事業計画・予算、並びに監査報告がありました。

### 3. 交流会

「自然環境・社会環境・啓発活動」の3テーマに別れ、日頃の活動の課題を共有し、これからの活動について語り合い、『つながる』(さまざまな人とともに活動する)、『広がる・拡げる』(活動の輪を拡げる)、『共有する』(知識、経験、ノウハウを多くの人と共有する)ことをねらいに情報交換をすすめました。

## No.68 の内容

- I. 環境講座・ネットワークのつどい開催報告…………… P.1
- II. 寄稿『日本人の心と環境』井勝久喜…………… P.2
- III. 寄稿『龍ノログリーンシャワーの森を守る会』北川文夫…………… P.3
- IV. 助成活動報告『岡山淡水魚研究会』…………… P.4
- V. 2012年度下期『市民のための環境講座』ご案内…………… P.5
- VI. 2013年度『助成・協働事業』ご案内…………… P.6
- VII. 『水環境フォーラム』『体験プログラム』等ご案内…………… P.7
- VIII. 気になる数字、ご案内等…………… P.8

井勝 久喜

## 日本人の心と環境



明治以後の日本人は、西洋文明こそが先進文明であり、それを取り入れることが日本を先進国にすることだと考え、懸命に西洋化を目指してきたように思います。しかし、資本主義経済と一神教の教えを主体とする西洋文明が世界の自然を破壊してきたことを考えたとき、本当に西洋文明が先進文明なのであるかと、再考してみるときに来ていると思います。

ところで、日本人は世界の中でもとても特殊な民族だと思うのは私だけではないと思います。2011年3月11日に発生した東日本大震災は東北地方に甚大な被害をもたらし、多くの尊い命を奪いました。しかし、未曾有の災害の中、多くの日本人は暴動や略奪も起こさず、泣き叫びもせず、他者を思い遣りながら耐えていました。「損壊した民

家から救い出される際、救助隊員に不便をかけたことを謝罪する」こんな民族は世界を見渡しても多くはないでしょう。「日本社会に根付く義務感、逆境での品位、謙虚さ、寛容、勇気のみものだ」、「日本独特の榮譽を重んじ、恥を知り、礼を重んずる特性」など、世界から日本に寄せられた称讃の声は日本人の心を世界に示したと思います。

経済優先社会の中でも日本人としての行動規範が残っていたことを日本人として誇りに思います。ではなぜ、日本人はこのような心を持っているのでしょうか。「日本人は、自然を信じ、人間を信じ、太陽や森、山や川や海に祈る心を持ち、他者の命に対して畏敬の念を持っている。自然の資源を使い尽くさないで、循環的に利用し、自らの欲望をコントロールし、「利他の心」と「慈悲の心」を持っている。」日本人の行動規範は、稲作漁撈民として自然と共に生きてきた日本人が守り通していたものと環境考古学者の安田喜憲さんが言っています。自然を崇拜する心が日本人の行動規範を作り上げてきたのでしょうか。

自然と共存してきた日本の文化や考え方は、古い考えのように思えますが、実はこれからの世界をリードしていく先進的な考え方なのではないでしょうか。

人間の欲望を後戻りさせることは困難だといわれています。市場原理主義の現代文明が物質的な豊かさを追い求めるものである限り、地球環境は破壊され続けることでしょう。市場原理主義が支配する現代文明では、人間の欲望を満たしながら持続可能な社会を創ることは不可能であり、現代文明はいずれ崩壊することになるでしょう。現代文明が崩壊を始めたとき、人類は多くの苦難を味わうことになるでしょうが、それを乗り越えて新しい文明を作らなければなりません。新しい文明は、自然と共生することができる文明でなければ持続できません。そのとき、日本人のメンタリティーが世界最先端の考え方として世界をリードすることができれば、持続可能な新しい文明が創れるかもしれません。経済力や軍事力で世界をリードするのではなく、心の豊かさで世界をリードしたいものです。

## 井勝 久喜 氏

1956年生まれ

鳥取県出身

吉備国際大学国際環境

経営学部・学部長・教授

環境省登録環境カウンセラー

(市民部門)

(財) おかやま環境ネットワーク

理事

北川 文夫

## 龍ノ口グリーンシャワーの森を守る会



## 1. 設立とその背景

岡山県の財政難のため龍ノ口グリーンシャワー公園は2010年3月末で閉園になりました。

もともと龍ノ口山はふもとの一部分と八幡神社所有地以外は国有林であり、県が国と賃貸契約を結びグリーンシャワー公園として整備、運営してきました。ですから遊歩道も閉鎖という事も十分予想されました。しかし、地元の人は気軽に登れる自然豊かな山として良く利用していますし、遠方から車で来られる方もたくさんいます。小学校の遠足や中学校の体力トレーニングなどにも頻繁に利用されています。また、動物や植物が豊富であり、ふもとの用水には天然記念物のアユモドキも生息しています。さらに古墳や廃寺など遺跡もあるなど地元の自慢の自然財産といえる地域です。従って、閉鎖を心配した人たちが声を上げて継続できるように何度も県と協議を重ねました。その結果、地元の人たちが定期的なパトロールやトイレ清掃、草刈などを行う条件で存続が認められました。これらの管理運営を行う目的で「龍ノ口グリーンシャワーの森を守る会」が発足しました。

## 北川 文夫氏

1957年生まれ  
群馬県出身  
岡山理科大学教授  
龍ノ口グリーンシャワーの森を守る会会員、おかやま投稿型古写真データベース作成委員会委員長  
(財)おかやま環境ネットワーク評議員

## 2. 活動の概要

主な活動は次の3つに分類されます。

**総会:** 年次計画、前年度活動報告、予算、班別活動の打ち合わせなどを行います。

**共生の森事業:** 年間3回程度、備前県民局と共に枝打ちやツルの除去などの活動を行っています。

**定常的活動:**

- ・パトロール班: 毎月数回はルート別のコースを歩き、危険個所の発見やスズメバチ情報などの連絡を行います。
- ・トイレ掃除班: 毎週2回、駐車場とふれあい広場のトイレ清掃を行います。
- ・草刈り班: 山道の両脇に茂りすぎた草を刈ります。

## 3. これまでの活動

2009年11月設立準備総会

2010年2月設立総会

総会は2010、2011、2012年の5月に行いました。

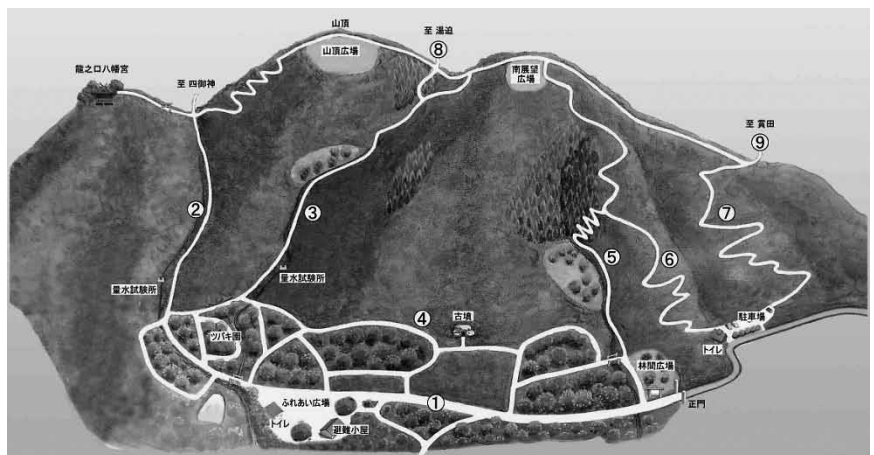
共生の森事業は、2010年7月、9月、

2010年7月、9月、12月、2011年10月、12月に行い、これ以外に野鳥観察会や、シイタケ菌種体験イベントなどを行いました。

## 4. 活動を通じて

行政が財政難で手放した自然公園を地元の有志が指定管理者団体を組織し公園を存続させるという画期的な活動をしていると自負しています。しかしながら、会員登録が200名以上でありながら、会の組織運営を支える人材が少ないという問題を抱えています。

人が身近に感じられる自然を残すことは重要だという事は誰もが認めることですが、多くの人が自然にふれることのできるフィールドを管理運営することも重要であり、それを実践した一例と言えるでしょう。また、地元町内会長さんも含めた活動を、たくさんの方々と共同して進められたということから、地域自治という観点からも良い例となる活動と位置づけられるものと考えています。



URL <http://www.ab.auone-net.jp/~tgsf/> 連絡先 高島公民館 (086-275-1341)

# NPO 法人岡山淡水魚研究会 「永江川河口湿地の形成と現状から、 今後の保全のあり方を検証する」

## 1. 事業の目的

日本の重要湿地 500「永江川河口湿地」の保全のあり方を検討するための基本資料の作成。

## 2. 主な活動

- ・資料から湿地形成概略を分析。
- ・現在の湿地の状況を生物個体数調査によって把握。
- ・研究報告としてまとめた干潟の無脊椎生物相と変遷の記録を上空写真と照合させて記録。
- ・調査の内容を写真展示等によって報告。

## 3. この活動の成果

古地図及び文献調査から、永江川河口湿地は1684年から現在にかけて形成されたものであること、近年完成した堤防によって、歴史的意義をもつと考えられる石積み護岸が検証されることなく撤去されていたことが明らかになった。

また、当該湿地に棲息する絶滅危惧種のうち、分布条件が限定的であるシオマネキの分布域および個体数を調査した。当該湿地ではシオマネキが確認できる裸地周辺にオカミミガイ、ヒラドカワザンショウが分布するヨシ群があることを意味する。干潮時（宇野港潮位 30cm～80cm）および満潮時（同 130～180cm）それぞれの上空写真とこれらの生物分布から、当該湿地の地盤高が把握できた。干潟後背湿地内の標高の 30cm～80cm の変化が生物分布に影響していると考えられるため、今後、変化が生じた場合に、地形変化（水位、

流速、懸濁物、塩分由来の堆積物の異変）およびこれに先立って実施した土質調査データと合わせて、原因を検討するための貴重な資料になる。

なお、本助成によって実現したものは上空写真の撮影のみであるが、自己資金によって報文二編を出させていただいた（倉敷市立自然史博物館研究報告第 26 号）。

## 4. 今後の計画・展望について

地元町内の聞き取りにより、ヨシ堤防が減少していることが心配される。この現状把握をすることと対策を講じる必要がある。なお、2012 年度は、福武財団による助成によって、永江川河口湿地と同様に児島湾締め切り提塘建設以前の干潟環境の痕跡がある干潟を探すと同時に、当該湿地を含めた現在の児島湾の歴史／変遷についての

資料を整理する。

永江川河口湿地の生物多様性を特徴づけている要素であるシオマネキ（図 2 左）とオカミミガイ（図 2 右）の棲息環境に着目した。シオマネキは 2002 年に一個体が確認されて以降の報告がされていなかった。今回の調査で双眼鏡による計数と分布地点を確認により、個体数の増加と分布域の拡大は明らかである（図 3 左）。稚ガニも含め、個体サイズのばらつきも観察されるため、良好な棲息環境を保っていると考えられる。これらの地上観察地点は、潮位が異なる二回の航空写真によって、ヨシ原湿地内の起伏（冠水）が棲息環境の条件であることがわかる（図 1 および図 3 右）。当該湿地の生物相および分布域の変化をこれらの微地形を維持することは保全の上で重要である。

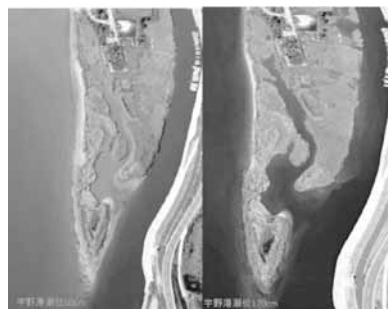


図 1



図 3



図 2

(財) おかやま環境ネットワーク・岡山市共催

## 2012 年度下期 『市民のための環境講座』

| 日程                                     | テーマ   | 内容紹介  | 講師                             |
|--|---|---|--------------------------------|
| 9月1日<br>(土)                            | 原子力発電と放射能問題                                 | 原発事故を正しく理解するために、原子力発電の原理、事故はどうして起こったか。放射性物質、放射能、放射線とは何か？放射線の人間に及ぼす影響について、分かりやすく解説します。                             | 岡山大学<br>社会連携本部本部長<br>青山勲氏      |
| ※9/1(土)は残席僅かです。電話にて残席をご確認のうえ、お申込みください。 |   |   |                                |
| 10月6日<br>(土)                           | 岡山県下の水環境の現状をインターネットで知る方法                    | 水質汚濁防止法に基づいて岡山県が公共用水域の水質をモニタリングしていますが、その測定結果は県のホームページに毎年公開されています。その公表データを用いて自分が住んでいるところの水環境の現状を知る方法を伝授致します。       | 岡山理科大学<br>理学部教授<br>野上祐作氏       |
| 10月14日<br>(日)                          | 自然エネルギー技術の研究開発と地域社会への導入                     | 実験として30Wの小水力発電機で暮らしてみたら意外にも暮らしていけました。私たちは電気を使いすぎていたのではないのでしょうか。エネルギーの「地産地消」で千年持続可能な社会を考えてみたいと思います。                | 名古屋大学大学院<br>環境学研究科准教授<br>高野雅夫氏 |
| 11月10日<br>(土)                          | エコロジカル・フットプリントの考え方と応用事例                     | エコロジカル・フットプリント指標の考え方を説明し、その後、いくつかの応用事例を紹介します。   | 同志社大学<br>経済学部教授<br>和田喜彦氏       |
| 12月1日<br>(土)                           | 環境問題を捉える視点                                  | 環境問題の解決が難しいのは人により環境問題の捉え方が違うためです。環境問題の本質を見据え、本当の豊かさとは何かということについて考えながら、環境問題の解決策について議論してみましょう。                      | 吉備国際大学<br>国際環境経営学部部長<br>井勝久喜氏  |
| 1月12日<br>(土)                           | 生物多様性の意味について                                | 絶滅危惧昆虫の保護活動や、外国(アフリカ、南米、ロシアなど)で観察した野生動物や昆虫と、人間との係わり合いなどから生物多様性の意味や意義を考えてみます。                                      | 岡山県立大学<br>名誉教授<br>伊藤國彦氏        |
| 3月9日<br>(土)                            | エコロジカル・フットプリントって？～私たちは地球1個分の範囲で暮らすことが不可欠です～ | 人間活動の総ては生態系に依存します。人類社会が持続するためには、[人間活動量] < [生態系の能力] が根本条件です。人間活動量をエコロジカル・フットプリントといい、両者の測定方法が確立されました。私たちも測定してみましょう。 | 元岡山大学<br>准教授<br>白井浩子氏          |

※本講座は「岡山市」との共催、また「岡山県生涯学習大学連携講座」として開催します。

※10/14開催の高野雅夫先生の講座は「おかやまエコマインドネットワーク」との共催企画として開催します。

●会場：オルガ(岡山市北区奉還町1-7-7) ●時間：10～12時 ●受講料：無料

●定数：45名(先着順)必ず事前にお申込みください。定数を超過し参加いただけない場合のみ連絡します。

(財) おかやま環境ネットワーク 〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7

TEL/FAX：086-256-2565 E-mail：kankyounet@okayama.coop

切り取り線

## 2012 年度『市民のための環境講座』参加申込書

|            |     |   |        |       |       |      |      |     |
|------------|-----|---|--------|-------|-------|------|------|-----|
| ふりがな<br>氏名 | 住所  |   | 〒      |       |       |      |      |     |
| 電話         | FAX |   | E-mail |       |       |      |      |     |
| 申込日に○を     | 9/1 | ※ | 10/6   | 10/14 | 11/10 | 12/1 | 1/12 | 3/9 |

※9/1(土)は、残席僅かです。電話にて残席をご確認のうえ、お申込みください。

※お寄せいただく個人情報は利用目的以外の使用や第三者への開示などは一切行いません。

## 2013年度環境活動団体助成・協働事業 募集のご案内

1. **目的**：岡山県内で環境保全活動を行っている団体に資金の面から援助することにより、環境問題の解決に寄与します。また、おかやま環境ネットワークとの協働事業の提案を募集し、相乗効果が期待できる事業化を図ります。
2. **募集対象**：目的に添ったいずれかの分野で意欲のある取り組みをしている団体であれば応募できます（当財団の会員に限定していませんが、入会をおすすめします）。ただし、申請は1団体1件とします。小・中・高等学校のクラブ活動等の場合は教師が申請することとします。当財団以外に助成の申請をしている場合、又は助成が決まっている場合は、その助成内容が重複しない範囲とします。
3. **助成の対象となる活動**：①. 調査研究、②. おかやま環境ネットワークとの協働事業、③. その他
4. **助成の対象となる実施期間**：2013年4月1日～2014年2月28日
5. **助成対象費目**：
  - ①. 器具備品費：目的の達成に必要な器具、備品、書籍等（ただし、汎用性のあるものは対象外）  
※汎用性とみなすもの：パソコン、カメラ、携帯電話、草刈り機等
  - ②. 物品資材購入費：目的の達成のために用いる各種材料、部品、薬品、文具類等
  - ③. 借料：会場借料、車両借料、機械などのリース及びレンタル料等
  - ④. 印刷費：報告書、チラシ作成等にかかわる印刷費（コピー代含む）等
  - ⑤. 通信交通費：送料、移動費用等※電話代は対象外
  - ⑥. 謝金：外部講師・専門家などへの謝金※助成申請団体の構成員への支払は対象外
6. **助成額**：1件あたりの助成額は、調査研究分野と協働事業提案は20万円、それ以外は10万円を上限とします。
7. **募集期間**：2012年8月1日～10月19日午後5時必着
8. **応募方法**：「助成事業・協働事業要望書」と「団体紹介表」に必要事項を入力の上、Eメールで送信ください。フォーマットは、ホームページから入手できます。（Eメールで送信できない場合は、必ず事前に事務局にご相談ください）。  
※協働事業につきましては、要望書提出後、別途内容の聞き取り確認をさせていただきます。
9. **助成の決定とその後の手続**：選考は目的に沿った活動を重視し、必要性、将来性のある具体的な計画案であることを検討します。助成部会の審査を経て、2013年2月度理事会で助成額を含め助成の可否を決定し、選考結果は2013年3月初旬に送付します。  
決定通知を受けた団体は同時に送付する「申請書」と「誓約書」を事務局に提出してください。助成金は「申請書」と「誓約書」が提出された後、2013年6月にオルガホール（岡山市北区奉還町1-7-7）で開催予定の『ネットワークのつどい（助成活動報告会）』（参加は必須要件）参加後に、指定の銀行口座に振り込みます（それ以前の助成金交付希望は事務局にご相談ください）。
10. **活動報告など**
  - ・助成を受けた全団体は助成活動終了後、「終了報告の手続き」に沿って「活動実績報告書」と「会計報告書」を提出し、『ネットワークのつどい（助成活動報告会）』に出席し報告してください（必須要件）。調査研究の部門で助成を受けた団体は成果物（論文等関連資料）も提出し、報告会で成果報告をしてください（必須要件）。助成終了後に活動がその後どのようなになっているのかを、当財団より聞き取りさせていただく場合もあります。
  - ・成果物及び報告書は広く当財団のホームページ等で広報します。
  - ・成果物及び報告書は電子媒体で提出してください（ただし、電子媒体での作成が難しい場合は、必ず事前に事務局にご相談ください。）また、活動内容を写した写真も添付してください。
  - ・助成期間終了時に余剰金が生じた場合や、期限までに報告書類の提出がない場合及び申請内容以外で使用した場合は返金させていただきます。

## 第5回水環境フォーラム in 岡山 開催のご案内

### 『農業に伴う地下水汚染に対する新たな対応』 ～ クリーニング作物の活用 ～

- ◆日時：7月14日(土) 13時～16時40分
- ◆場所：オルガ5階会議室「スカーレット」
- ◆主催：(公社)日本水環境学会中国・四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会、(財)おかやま環境ネットワーク
- ◆概要：農耕地への過剰施肥に起因する地下水汚染は大きな問題となっており、その対策が喫緊の課題となっています。本フォーラムでは、科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」に携わる3名の研究者を迎え、農業地域の地下水汚染抑制と資源回収を同時に実現する革新的なシステム開発に関する研究成果を講演いただきます。
- ◆内容：
  - ・藤原拓氏(高知大学)：農地に由来する地下水汚染の抑制～クリーニング作物の活用～
  - ・永禮英明氏(岡山大学)：クリーニング作物からの肥料成分の回収・再利用
  - ・赤尾聡史氏(鳥取大学)：クリーニング作物を資源に～糖化と発酵～
  - ・総合討論会
- ◆参加費：無料(要申込)
- ◆募集定員：40名(先着順)

## 第3回体験プログラム 開催のご案内

### 『みつばち農園エコツアー』 ～ 実感!生物多様性 ～

- ◆日時：8月28日(火)
  - ◆行先：山田養蜂場みつばち農園(岡山県苫田郡鏡野町)
  - ◆スケジュール(予定)：
    - 8:15 コープ築港出発(岡山市南区築港元町14-1)
    - 9:00 オルガ出発(岡山市北区奉還町1-7-7)
    - 11:00～15:00 山田養蜂場
    - 17:00 オルガ着
    - 17:45 コープ築港着
  - ◆内容：はちみつ工場見学と養蜂体験
  - ◆定員：40名(多数の場合抽選、参加の可否は郵送にて連絡)  
※当選者には詳細案内を郵送します。
  - ◆応募資格：小学2年生以上、未成年者は保護者同伴、大人のみ参加可
  - ◆申込：8月10日までに氏名・年齢・住所・電話・集合場所(①オルガ、②コープ築港)を郵送、ファックス、Eメールでご連絡ください。
  - ◆参加費：参加費：1人2,000円(工場見学代と養蜂体験代の実費です。年齢関係無、昼食各自持参)
- ※雨天決行、警報発令時のみ中止します。  
※運動靴等でご参加ください。  
※当事業は、岡山県環境学習エコツアー事業として開催します。

※お寄せいただく個人情報は、利用目的以外の使用や第三者への開示などは一切行いません。

## 「美咲の森完成記念のつどい」(2012年度おかやま環境ネットワーク協働事業)のご案内

千年の森づくりグループと美咲町中央小学校は、2004年の台風23号で「被害を受けた森」、「開発で失われた森」の再生に取り組んでおり、事業はほぼ完成を迎えます。  
豊かな森を体験・実感し、森への理解を深めましょう。参加費無料、一般の方歓迎!

- ◆概要
  - ・日時：9月29日(土) 9:30～11:30
  - ・場所：久米郡美咲町・美咲中央小学校(体育館)
  - ・内容：木工教室(岡山森林監督署協力)、竹粉碎機の実演(堆肥化・バイオマス燃料化)グリーンカーテンなどの取り組み報告、交流
  - ・参加費：無料
  - ・主催：美咲中央小学校、PTA、千年の森づくりグループ他、共催：(財)おかやま環境ネットワーク
  - ・お問い合わせ：千年の森づくりグループ・浦島文男 090-4896-7930

## 環境家計簿レポート発行 (同封)のお知らせ

おかやま環境ネットワーク環境家計簿委員会と岡山市とで協働ですすめています「環境家計簿」の2011年実績をまとめた『環境家計簿レポート』ができあがりしましたので、会員の皆様に1部同封しています。ご覧ください。

### ● CO<sub>2</sub> 排出量は前年と比べ 5.8% 削減!

集計の結果、前年に比べてCO<sub>2</sub>排出量を5.8%減らすことができました。また、全てのエネルギーで1世帯当たりCO<sub>2</sub>排出量を前年から削減することができました。

これは、環境家計簿をつけることにより「環境」を重視し、生活を見つめ直した成果です。

あなたも環境家計簿をつけ、環境に配慮した暮らし方で家庭からのCO<sub>2</sub>排出を削減していきましょう(新規モニター募集は11月頃の予定です。モニター登録をして、暮らしを見直しましょう)。

※「環境家計簿モニター」の皆様へお願い

2012年上期実績報告(1~6月分)を7月中旬に報告をお願いします。

## ホテル団体交流会の ご案内

ホテルの保護、復活、再生をめざす人々にお集まりいただき、年3回ホテル団体交流会を開催し、取り組みの交流をすすめています。

どなたでも参加できます(無料)。ホテルに関する交流をすすめ、ネットワークをひろげましょう。

①日時:7月14日(土)

10:00~12:00

②場所:オルガ5階会議室

③内容:取り組み交流等

④申込:必ず事前にお名前・連絡先をご連絡ください。

かけがえのない地球、未来のこどもたちへ!

## くらしの中の 気になる数字

### 『何気なくもらっているレジ袋

#### 気にしてみませんか』

日本のレジ袋の使用量は、年間約38万トンと推計されています。これは、日本全国で約470億枚、国民1人あたりでは年間390枚使っていることになります。つまり、1人1日1枚使っている計算です。

2007年に改正された容器包装リサイクル法において、スーパー・コンビニなど小売業者に対して、レジ袋等の削減対策の実施が義務づけられました。

これを受けて、全国各地でさまざまな取り組みが進められています。行政・事業者間の自主協定によるレジ袋の有料化、レジ袋の辞退者への割引サービス、エコバックの配布などが実施されています。自主協定による取り組みは、2007年に京都市で始められました。「京都市方式」と呼ばれ、名古屋市や仙台市など全国に広まっています。また、町田市は「レジ袋ゼロの社会」をめざし、市民団体・事業者と連携し、有料・無料を問わずレジ袋廃止実験が実施されました。

(EIC ネット・エコナビより)

岡山県でも今年11月からレジ袋が有料化される予定です。

## エコロジカル・フットプリント パンフレット発行(同封)の お知らせ

この度、白井浩子氏(元岡山大学)と和田嘉彦氏(同志社大学)の翻訳によるテキスト『カルガリー市の画期的な環境への取り組み! 好ましい未来へ』を発行しました。

会員の皆様に1部同封しています。ご覧ください。

※本紙P.5掲載の『市民のための環境講座』の11月10日(土)並びに3月9日(土)の講座で詳しいお話が聴けます。是非、お申込みいただき、学習をすすめましょう。

## 公益法人 申請について

2008年に公益法人に関する法律が改正され、すべての財団・社団法人は5年以内に新制度に基づく法人格に移行申請することが求められています。概要は、登記だけで法人格がとれる「一般財団法人」と、高い公益性を審査される「公益財団法人」に分かれることになります。

おかやま環境ネットワークは公益事業を行う法人であるため「公益財団法人」へ移行申請します。もともと環境保全のための公益活動を事業内容としてきましたので、公益財団法人に移行しても環境活動という事業内容については今までと変わりありません。しかし、公益性について今までより高いレベルを求められることになります。

公益財団法人になるメリットとしては、社会的な信頼度が増すということ以外に、会費や寄附の金額に応じて所得控除の対象となります。



.....  
: 2012年度会費をまだ納付い  
: ただいていない会員の皆様に振  
: 込用紙を同封しております。お  
: 振り込みくださいますよう、お  
: 願いいたします(入れ違いでお  
: 振り込みいただいております  
: らご容赦ください)。  
: .....

.....  
: 会費は、企業・協同組合:1  
: 口2万円、団体・NPO法人・  
: 個人:1口2千円、1口以上を  
: お願いいたします。  
: .....

### ■お問い合わせは

(財)おかやま環境ネットワーク

〒700-0026

岡山市北区奉還町1-7-7(オルガ6階)

TEL/FAX 086-256-2565

E-mail:kankyounet@okayama.coop

HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/